

# 2022年 特別号 療育ねっとわーく川崎 会員大募集!!

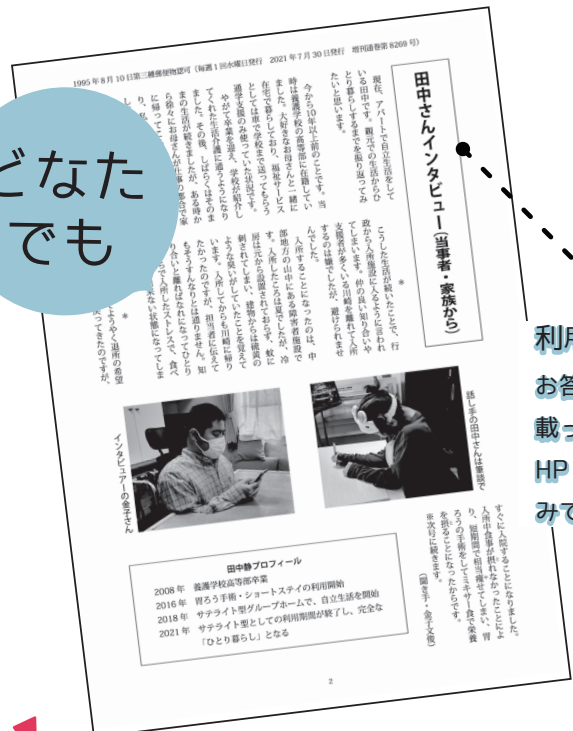
いつもは  
こちら



療育ねっとわーく川崎とは

ひとりひとりの生活を豊かにするケアを 家族だけに任せない、そんな地域の力を集める場所です。

どなた  
でも



療ねニュース

1面から4面は外部向けに発行



教えて  
編集長

利用者さんから日々の生活での疑問や困りごとにお答えしたり、当事者の方の視点で感じたことが載っていたり、制度に関する説明などを掲載。HPともリンクしていますので、ぜひチェックしてみてください。



会員ページは5面から8面の4ページ

療育ねっとわーく川崎ならではの取り組みや生活に密接した具体事例、利用者さんからのご意見、職員研修の報告、利用者さんのコラム等々、盛り沢山です。

お役に立つ情報や、ほっと一息できる記事など、会員さん向けならではの内容をご覧ください。

会員  
さま

～会員さま感想～

外部ページの記事に関連した内容が実例に沿って説明されていて分かりやすかったです。



## 新規入会・会員の更新手続きのご案内

いつも療育ねっとわーく川崎活動をご支援いただきありがとうございます。  
新規入会・会員更新の手続きについて、ご案内いたします。

この機会に、ぜひ新規会員になっていただき、「障害のある人と家族が地域で生き生き豊かに暮らせる」地域を目指す活動にご参加いただきますようお願い申し上げます。

### 【会員の種類】

- 正会員・・・年会費 2500円
- 利用会員・・・サービス利用会員（福祉有償車利用の方は必須） 年会費 2000円
- 賛助会員・・・賛助会員 年会費 □（1口1000円）

## 療育ねっとわーく川崎から寄付のお願い

療育ねっとわーく川崎の活動に賛同して下さる方からのご寄付をお願いしています。

療育ねっとわーく川崎は、設立当初から、契約した方を支援する「サポート事業」だけではなく、地域の方が「障害」を理解しつながりを広げるための「ネットワーク事業」を行っています。このネットワーク事業をさらに充実させるための資金としてのご寄付をお願いします。



ネットワーク事業では、

- ・サポートセンターを拠点に、カフェやショップを通しての交流。映画会や学習会の開催。ウェルフェスや民家園通り商店街夏祭りの参加などの開催をしています。
- ・会報の発行：会員だけでなく、障害児者に関わる多くの方に情報を届けるために、月1回会報3000部を発行しています。

また、川崎市重症心身障害児を守る会やフュージョンコムかながわ、豊かな地域療育を考える連絡会、かながわ福祉移動サービスなどの団体に協力参加しています。

### 会員・賛助会員募集

（連絡先） 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond  
Tel 044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: tani@rond.jp http://rond2981.jimdo.com/  
（会費振込先） 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎  
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2500円 賛助会費一口 1000円

発行所 〒一五七〇〇七二 世田谷区祖師谷三一一一七七一〇二  
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価一〇〇円



# 私の子育て10年と療ね

事務局 七川富美子

娘が生まれ、その子に障がいがあるとわかってから10年。どう育てていけばいいか不安しかなかった時から、少しずつ制度を知り、サービスを利用し、ようやく今の生活があります。そして、困ったときや選択に悩んだときは、ロンドの先輩保護者や職員からの様々なアドバイス、療ねニュースの情報はとても頼りになる。ですが、療ねだけでは解決できないことももちろんあります。だからこそ、豊かな地域療育を考える連絡会や重心を守る会をはじめ、療ねのネットワークやつながりは大切で、次の世代につないでいきたいと感じています。

【生後】NICU退院後の自宅での子育てはわからないことばかりでとても大変で孤独でした。

【1歳】初めて利用したのは、療ねの「フリーサポート」でした。資格取得のため、実習期間の1カ月、子どもをどこかに預ける必要がありました。しかし、預かってくれるところは見つかりませんでした。そんなとき、療育センターのワーカーさんが紹介してくれたのがロンドの「フリーサポート」でした。

【2歳】ロンド児童デイ利用開始。家では見せない表情や様子を聞いて、嬉しさと驚きを感じました。

「障害があっても地域で暮らす」この意味を肌で感じました。そして私は療ねの職員に。

【4歳】摂食に課題を感じていた頃、連絡会を通じて、訪問リハ（ST）を受けられる事を知り、利用開始。今も訓練は継続中ですが、食べたり飲んだりがとても上手になりました。

【5歳】いよいよ就学。養護学校か、地域の支援級かどちらがいいのか。療ねひろばの先輩保護者から経験談を聞いたり、豊かな地域療育を考える連絡会で情報収集したり。送迎や放課後のことはもちろん大切だけど、「本人にとって大切なことは何か」を考えることが大切だと教えてもらいました。

【9歳】医療的ケア交流会に参加し、かかりつけ医と主治医病院について考えるようになりました。日々の医療といざという時の医療の連携はこのままでいいのか、子どもから大人になった時の医療体制はどうなるのか。早めに考えておく必要があると知りました。主治医の先生が退職されるのを機に、主治医病院の変更と合わせて、訪問医の利用を開始しました。

また、もしもの時のために、そして自立を見据えて「ショートステイ」の利用も開始しました。

【10歳】娘もだいぶ大きくなり、入浴や移乗が困難になってきたと感じるようになりました。リフターやバリアフリーについての情報を教えてもらい、将来の介助や在宅生活を見越してリフター導入を決断しました。

「今」だけではなく、「これから」を考えることの大切さを改めて感じています。

会員のみなさん、療ねに関わるみなさんとともに、「今」と「これから」を考えていきたいと思っています。



フリーサポート



保育園



就学



リフター

## 親亡き後を考える

☆6月号から2面に新シリーズが始まります。

前回、会員向けアンケートにて、特に多く寄せられたのは親亡き後のご本人たちへの心配事でした。「今は何とか頑張っている。でも10年後は考えられない…」そんな声がたくさん寄せられました。「みなさん、年齢が上がるとどんな生活をされているの?」「先輩方の話をききたい」そんな声もありました。ロンドが始まって20年経ちます。その中で私たちが経験したこと、これをこれからいくつかご紹介していきます。

### 自宅にヘルパーを入れる

Aさんは脳性麻痺で、40歳になるまでは普通に歩いて通所し、お兄さんと弟さんが家を出られた後はご両親と三人で暮らしていました。

ところが、40を過ぎたあたりで転倒することが多くなり、あつという間に歩行が困難になってしまいました。43歳になる頃には自力で座ることも難しく、食事や排せつ、移動が全介助になりました。それまで住んでいた団地で暮らし続けることが出来なくなり、新しく障害者住宅のある団地に引っ越し。お母さんは当時

70歳になる頃でしたが、いきなりAさんの介護を担うことになってしまいました。Aさんは体重が50kg以上ありもちろん抱え上げることでできません。更生相談所が入り、ベッドサイドと浴室にリフターが設置されお母さんはなんとかこれを使いこなして介護にあたりました。この頃ロンドに連絡があり、ヘルパーが伺って入浴介護をすることになりました。

\*

それまでサービスというものを使ったことがなく、お母さんもAさんも、ヘルパーに何を頼んでいいの

かよくわからないままに派遣が始まりました。人懐こい性格だったAさんはすぐにヘルパーにも慣れ、お母さんともお話しするうちに、ぼつぼつと困っていることなど口に出されるようになりまし。引越して通所先も変わってしまったけど、お友達や仲の良い職員さんに会いに行きたい」と希望が出たので、外出介護でヘルパーとお出掛けをすることになりました。

\*

Aさんの入浴はヘルパーが二人入ったの介護になります。週に2回のサポートでしたが、4〜5名のへ



ルパーが担当しており、お母さんはヘルパーと会話することも介護の息抜きになるようでした。何年かたつとお父さんがご病気になる亡くなりまし。ご自宅で葬儀をすることになり、通夜、葬儀にはヘルパーが付き添いAさんも家族の一員として、お父さんを見送られました。

\*

二人暮らしが始まりしばらくして、朝、お母さんがAさんの排泄介助をトイレでやっていると、Aさんが滑り落ちて床に頭を打つてしまふ事がありました。救急車を呼び病院で診てもらいましたが、幸いにもけがはありませんでした。でも、この件でお母さんから「トイレの介助も手伝って欲しい」と希望が出て、通所のある朝はヘルパーが入って朝ケアを手伝うことになりました。その後お母さんから、朝だけでなく入浴のない夕方の支援の希望も出るようになりまし。ロンドだけでは派遣が難しいので、他の事業所にも入ってもらうことになりました。だんだんと自宅で手厚い支援体制が出来ていました。

(次号につづく)